



新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	行動計画											
						平成28年度	平成29年度	平成30年度	①平成30年度 重点取り組み項目(具体)	②平成30年度取組状況 (H30.8.1現在)	達成度 (上半期)	③平成30年度下半期の取 り組み(予定)	④問題点等	平成31年度	平成32年度		
3. 利用者の利便性・快適性を高める施設整備	ユニバーサルデザインの推進	誰でも安心して利用できる博物館	高齢者や福祉団体の休憩室整備		創造室	第2期実施設計	第2期工事	第2期整備(完成)	4月にリニューアルオープンする。	・4月2日 リニューアルオープン	100%	—	—	—	—	—	
		誰でも容易に理解できる表示	わかりやすい館内サイン／多言語対応／読みやすい解説パネル		創造室	第1期整備 第2期実施設計	第2期工事	第2期整備 第3期実施設計	【第2期整備】 7月におとなのディスカバリー、ディスカバリールームをリニューアルオープンする。 【第3期実施設計】 4月に起工、5月にプロポーザル公告、6月に契約締結して着手し、3月に設計を完了する。	【第2期整備】 ・7月6日 おとなのディスカバリー、ディスカバリールーム オープン 【第3期実施設計】 ・4月20日 起工(上申) ・5月9日 フロア・サル公告 ・6月25日 契約締結、着手	70%	【第3期実施設計】 ・設計内容の検討 ・3月上旬 設計完了	—	第3期工事	第3期整備		
		利用者が参加する使い勝手の検証			創造室	UD検討委員会	UD検討委員会	UD検討委員会	第3期実施設計の契約締結後、UD評価を2回開催する。	・6月25日 第3期実施設計契約締結	0%	・9月13日 第1回開催 ・12月頃 第2回開催	—	—	UD検討委員会	第3期整備	
					展示	サイン・パネルの検証	サイン・パネルの修正	サイン・パネルの検討	サイン・パネルをわかりやすくする。	アトリウムの柱に案内サインを設置した。	80%	引き続き、サイン・パネル検証し、適宜修正する。	—	—	サイン・パネルの作成	サイン・パネルの検証	
4. 多様な主体との連携	地域との連携	地域の多様な主体との協同	地域と博物館の共同事業の検討および宣伝		交流	検討の開始	検討結果のまとめ	共同事業のアイデア集を公開	共同事業の事例集を作成、公開する。	着手していない。	0%	事例の蓄積は進んでいるので、代表的な事例を各1枚のシートにまとめる。	アイデアよりも事例紹介の方が、共同事業促進に有効と思われるため、事例紹介とする。	共同事業の事例集を公開	共同事業の事例集を増補・公開		
	学校との連携	学校による博物館利用の推進	地域を研究する中学生・高校生の交流会			博物館内での検討開始	学校教員とともに検討会をつくる	交流会の立ち上げ 交流会の開催	はしかけグループ「琵琶湖染山泊」を立ち上げ、活動する。	すでに立ち上げを完了、琵琶湖の観察等の活動を行っている。	100%	さらに研究を進めるとともに、新たな会員を募集し、研鑽会などを行っている。	—	年2回以上の交流会・ワークショップの開催	年2回以上の交流会・ワークショップの開催		
	関係団体との連携	環境問題解決のため試験研究機関や行政との連携を強化	琵琶湖環境研究推進機構への参加	琵琶湖再生法関連研究	研究部	「在来魚介類のぎざい復活に向けた研究」最終年度	新「在来魚介類のぎざい復活に向けた研究(第2期)」参加	新「在来魚介類のぎざい復活に向けた研究(第2期)」参加	他の研究機関と連携を図りながら、担当学芸員を中心に研究を行う	継続して野外調査を実施した	50%	野外調査の結果をまとめていく	—	「在来魚介類のぎざい復活に向けた研究(第2期)」最終年度			
						「外来魚駆除に関わる研究」最終年度	「外来水生植物駆除に関わる研究」参加	「外来水生植物駆除に関わる研究」参加	担当学芸員を中心に研究を進める	外来水生植物駆除およびその研究に参加	50%	引き続き研究調査を行う	—	「外来水生植物駆除に関わる研究」最終年度			
						南湖の沈水植物に関する研究(琵琶湖・琵琶研)	南湖の沈水植物に関する研究(琵琶湖・琵琶研・県立大)	南湖の沈水植物に関する研究(琵琶湖・琵琶研・県立大)	南湖の沈水植物の継続研究調査を行う	定期的な観測を行った	60%	後半も引き続き観測を行い、今年度のデータをまとめる	—	南湖の沈水植物に関する研究(琵琶湖・琵琶研・県立大)			
						その他の連携	ILEC30周年記念展の実施 試験研究機関連絡会議	NORNAC滋賀県大会開催 試験研究機関連絡会議	試験研究機関連絡会議	10月の発表会に参加し、博物館から1件報告する	発表者を選出し、発表内容も確定した	70%	長浜バイオドームで口頭発表を行う	—	試験研究機関連絡会議		
	他博物館・美術館と連携し発信力を強化	共同イベントによる博物館の役割のアピール	企画調整課	佐川美術館との共同イベント	ICOM京都大会の準備、 県博協35周年記念事業	ICOM京都大会の準備	エクスカージョンプログラムの準備と委員会へのテーマ提案	6月に4館対応会議を開催し、会議準備状況の情報を共有	50%	—	—	—	ICOM京都大会				
				近隣施設と連携し地域の活性化と集客増	イベントの共同開催や広報における協力	鳥丸半島活性化協議会への参加	広報営業課	イベントチラシ作成、スタンプラリーの実施	チラシ作成、 共同イベントの企画・検討	共同イベントの実施(リニューアルイベント等との共同実施)	スタンプラリーを2回実施する。	夏にもスタンプラリーを実施	50%	下期のイベントを検討のうえ、スタンプラリーの実施	—	チラシ作成、 共同イベントの企画・検討	共同イベントの実施(リニューアルイベント等との共同実施)
	企業・大学との連携	訪問活動による連携と博物館利用の促進	企業・団体等	リニューアールサポーター・企業メンバーシップ・水槽サポーター制度による支援と博物館利用の促進	広報営業課	県内拠点企業等訪問 企業サポーター交流会 企業の環境保全活動等紹介	流域府県の企業等訪問 企業サポーター交流会 企業の環境保全活動等紹介	流域府県外の企業等訪問 企業サポーター交流会 企業の環境保全活動等紹介	本社が関西の会社の訪問を目指す。	環境に関心のある企業に加え、県外本社の企業も訪問	30%	エコファースト(厚生労働省登録)をはじめとする関西の企業にも訪問を行っている。	—				
			大学・短大等	キャンパスメンバーズ制度による学生の博物館利用の促進	広報営業課	キャンパスメンバーズ制度整備	県内大学・短大等への訪問	流域府県の大学等へ対象拡大	県内大学への加入依頼を行う	県内大学への加入依頼を行う	20%	引き続き県内大学への加入を依頼する。	—	流域府県外の大学等へ対象拡大			
5. 広報・営業活動の強化	広報・営業活動の強化	国内知名度の向上	ターゲットを想定し情報発信		広報営業課	第1期リニューアルの情報発信(京阪神の子連れ家族)	第1期リニューアルの情報発信(京阪神の子連れ家族)	第2期リニューアルの情報発信(十大人)	第2期リニューアルオープン	リニューアルオープンに向け、県内新規住民等へチラシを配布	80%	樹冠トレイルのオープンに合わせて、県内および県外への発信をさらに続ける。	—	第2期リニューアルの情報発信(十大人)	第3期リニューアルの情報発信(十地域)		
			魅力的なイベント開催によるバリエーション	リニューアル関連情報の発信	広報営業課	第1期リニューアルオープン／開館20周年記念事業	東京「情報発信拠点」の活用開始	第2期リニューアルオープン記念事業	第2期リニューアルにあわせ、博物館のイベントを開催していく。	イベントの検討	20%	びわ博フェスやアトリウムコンサートを実施していく	—		第3期リニューアルオープン記念事業		
			定期的イベントによる発信		広報営業課	びわ博フェス(仮称)／アトリウムコンサート	びわ博フェス(仮称)／アトリウムコンサート	秋の樹冠トレイルオープンに併せて開催する	アトリウムコンサートやびわ博フェスの準備を行った。	20%	びわ博フェスやアトリウムコンサートを実施していく	—	びわ博フェス(仮称)／アトリウムコンサート	びわ博フェス(仮称)／アトリウムコンサート			
			旅行関係機関への働きかけ		広報営業課	提案資料・旅行プランの準備・作成	首都圏・修学旅行誘致キャラバンに参加 京阪神・旅行代理店訪問	旅行代理店をリニューアルイベントへ招待	2期オープニングイベントに合わせて旅行社等を招待する	「ディスカバリールーム」オープン内覧会に旅行社等を招待	80%	樹冠トレイルのオープン時にも検討	—	首都圏・修学旅行誘致キャラバンに参加 京阪神・旅行代理店訪問	旅行代理店をリニューアルイベントへ招待		
			流域府県の学校の利用促進	教育委員会や校長会との連携強化	広報営業課	利用実績分析、対策検討	流域府県の学校に働きかけ		—	—	—	—	—	—	対象地域の拡大		
			ウェブを利用した認知度と利用者利便性の向上	ウェブサイトの再構築(UD化・多言語化含む)	企画調整課 研究部	自治体セキュリティクラウドへ移行／基本ページ再構築	博物館紹介ページ追加 多言語化システム導入	ホームページのリニューアル	ホームページのリニューアル	プロポーザルを実施。実施事業者の選定、契約を行った。 研究部紹介ページの素案を検討し情報を集約する	30%	11月にホームページをリニューアルする。	—	研究や成果に関するページ追加(調べものができるサイト構築)	研究や成果に関するページ追加(調べものができるサイト構築)		
			海外認知度の向上(インバウンド招致)	パンフレット(日・英)	企画調整課	パンフレット作成	パンフレット改訂	2期リニューアルに合わせて改訂を行う	秋の樹冠トレイルの併せて改訂予定	0%	秋の樹冠トレイルの併せて改訂予定	—			パンフレット改定		
						展示ガイド冊子(英・中)	ガイド冊子作成	ガイド冊子改訂	2期リニューアルに合わせて改訂を行う	秋の樹冠トレイルの併せて改訂予定	0%	秋の樹冠トレイルの併せて改訂予定	—			ガイド冊子改定	
						総合展示ガイド(日・英)			—	—	—	—	—	—	—	作成開始	
						ウェブサイト用PR資料	外国向けPRパンフ作成、ウェブ掲載		—	—	—	—	—	—	—	—	
			旅行関係機関に働きかけ		広報営業課	びわこビジターズビューローのインバウンド部会と情報共有	博物館の外国語資料を周辺宿泊施設(部会メンバー)に設置	海外旅行博への資料の提供、海外旅行代理店招請事業への参加	びわこビジターズビューローの活動に併せて実施	びわこビジターズビューローの活動に併せて実施	10%	引き続き、びわこビジターズビューローの活動に併せて実施する。	—				
			料金体系の検討	利用しやすい料金体系を検討する	広報営業課 総務課	メンバーシップ制度の導入 年間観覧券制度の改正(27年度実施)	キャンパスメンバーズ制度の導入 現行料金体系の検証		—	—	—	—	—	—			
			アクセスの向上	バスの増便		広報営業課	バス会社との情報共有	バス会社と利用促進策検討		利用促進イベント(リニューアルイベント等でのバスの活用)	夏の期間に増便依頼	夏の期間に増便依頼	30%	—	—	増便に向けた協議継続	
				湖上交通		広報営業課	お盆期間の臨時遊覧船(琵琶湖汽船)を博物館来館者へPR	臨時遊覧船の継続・増便を要請／PR協力		利用促進イベント(リニューアルイベント等での船舶の活用)	GW お盆に鳥丸半島クルーズを実施。	GW お盆に鳥丸半島クルーズを実施。	80%	琵琶湖・鳥丸半島魅力向上活性化協議会での利用を検討する	—	大津港⇄鳥丸半島港便の運航の要請	

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	行動計画										
						平成28年度	平成29年度	平成30年度	①平成30年度重点取り組み項目(具体)	②平成30年度取組状況(H30.8.1現在)	達成度(上半期)	③平成30年度下半期の取組み(予定)	④問題点等	平成31年度	平成32年度	
6. 資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖	資料活用の促進	重要なコレクションの活用	漁撈用具コレクション国登録		資料活用	文化庁による全点調査開始	琵琶湖漁撈用具の国登録	ギャラリー展(春休み)	展示する資料の検討と展示会の実施	展示内容を検討中	40%	展示内容の検討と実施	—	B展示での展示準備	B展示リニューアル	
			古文書等の計画的公開			近江水産図譜を紹介する論文の公表	トピック展示	各古文書整備	古文書データベースの作成と資料の整理・登録	古文書データベースを作成	50%	資料の整理・登録	—	目録作成と公開	B展示リニューアル	
		寄贈コレクションの公開促進	寄贈されたコレクションの公開			標本・資料の整理			—	—	—	—	—	橋本鉄男文庫公開 伊谷純一郎文庫公開	布藤コレクション目録作成 橋本忠太郎コレクション目録作成	
		写真資料の継続的保存と公開の促進	フォトCDから媒体の乗り換え 大橋コレクションの作成と公開				フォトCDデータの媒体変換開始		—	—	—	—	—			
	資料検索機能充実	クラウド型資料データベースへ移行		汎用システム移行でセキュリティと発信力を向上		移行準備(仕様確定)	システム移行	ウェブ上の収蔵品データ公開ページの再構築と公開	収蔵品データの公開	公開用データベースを構築して、各資料の公開可能なデータを公開した	100%	—	—			
		図書総合情報システムへの移行		全国共通図書館データベースに参加		移行準備(仕様確定)	図書管理システムの導入	OPAC導入・情報の一般公開	OPACを導入、図書収蔵品情報の公開	OPACを導入し、図書データベースを公開した	100%	—	—	図書目録所在サービスに参加		
	飼育生物の計画的な繁殖	新たな飼育生物の飼育技術の確立	バイカルアザランの繁殖	発情周期を把握し、飼育管理を調整		バイカルアザランの安定的飼育体制確立	バイカルアザランの発情周期の確認	発情周期コントロールのための水温調整	水温調整による発情周期への影響を観察する	今年度の実施で発情期コントロールは良好だが妊娠兆候はなし	60%	引き続き水温調整を行い来年度に向けて発情期コントロールを行う(冬の水温調整実施)	—	過去3年間のデータに基づく日照時間調整	バイカルアザランの繁殖	
			カヤネズミの繁殖管理	管理計画を策定し、過剰な繁殖を抑制し健全な個体数を維持		防疫体制の確立・カヤネズミの繁殖	繁殖管理計画の策定	繁殖制限開始	繁殖管理計画によってカヤネズミの個体数の管理と推移の観察を行う	繁殖制限を実施し、増減があるものの個体数を40匹を目安に維持管理している	90%	個体数の推移の観察をつけ、随時繁殖管理計画を見直す	—	血統確認	計画的繁殖開始	
		日本産希少淡水魚の継続的な飼育	個体数減少種の入手と遺伝的な多様性の確保	他の施設との連携を強化し、資料交換や共同飼育		資料提供協力機関と入手が必要な種のリスト化	ネコギギの飼育繁殖事業に参加	ネコギギ以外の入手必要種の優先順位確定	優先順位を確定するための情報集めと順位の確定	順位の確定に必要な情報の収集を行った	60%	引き続き情報収集に努め優先順位を検討する	—	交渉開始・順次入手	入手の継続	
7. 「湖と人間」の関係を考える研究の推進	琵琶湖の価値の発見につながる研究強化	琵琶湖地域の「湖と人間」の関係変遷を探る総合的な研究の推進	(総合研究の課題)琵琶湖地域の自然および自然観の通時的変遷に関する研究		研究部	研究報告会での中間報告	研究成果の整理	成果をまとめた本の編集	総合研究の成果をまとめる	項目立てを行い、研究調査報告書の発行を目指す	40%	原稿を各共同研究者から収集する	—	成果をまとめた本の発行とリニューアル展示への反映	B展示リニューアルに反映	
			過去から現在までの琵琶湖淀川水系の自然と人の暮らしの変遷に関する研究			領域会議での新たな研究課題の検討	既存研究や資料の所在確認	具体的な研究計画の作成総合研究の申請	新たな総合研究の計画を策定し、申請する	2019年度からスタートさせるため、総合研究の計画調書を作成し、申請した	60%	9月の琵琶湖博物館総合・共同研究審査会で、プレゼンを行い、審査を受ける	—	総合研究の開始		
		「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究 ・湖や固有種の成立 ・人の暮らしと生物の営み	協力連携機関との共同研究①古代湖	バイカル博物館(ロシア)、オフリド水生生物研究所(マケドニア)との連携			20周年記念シンポジウムおよび特別研究セミナーの開催	共同研究に向けた情報交換とプロジェクトの検討	共同研究の申請	国際共同研究の計画案を提出し、研究交流できる準備を行う	国際共同研究を推進できるように、外部助成への申請を行なった	60%	研究者や資料情報の交流を図るため、お互いのHPでのリンクを行う。	—	共同研究の開始	共同研究の展開
			協力連携機関との共同研究②東アジアにおける琵琶湖淀川水系	水生生物研究所・湖南省博物館(中国)、洛東江生物資源館(韓国)との連携			洛東江生物資源館との合同セミナーの実施	洛東江生物資源館との協力協定締結、研究情報の交換・資料交換等の検討	研究情報や資料交換実施	洛東江生物資源館との二国間合同セミナーの実施	共同研究によるフィールド調査の実施や合同セミナー開催に向けての打ち合わせを行った	60%	洛東江生物資源館との二国間合同セミナーを12月開催する	—	日中韓の研究成果の発表交流	研究成果の展示の検討
	研究成果の発信力強化	「木から森へ」の博物館学の追求	博物館機能を活用した博物館学研究的の推進	博物館学研究領域を中心とした方法の開発			領域会議での検討	具体的な研究計画の検討	研究テーマおよび内容について検討し、計画を立てる	個々に、研究テーマを提示し、検討を行った	50%	検討結果を踏まえ、計画の見直しを立てる	—	共同研究の申請	共同研究の開始	
			インターネットでの発信	研究成果に基づく情報ページを開設				コンテンツ構成案を作成	研究部のページを作成する	コンテンツの考案と情報の集積を行った	40%	コンテンツを確定し、情報をまとめて作成する	—	コンテンツ作成	ページ作成と公開	
		刊行物による発信	『琵琶湖博物館』を冠にした一般書籍の発行			出版準備(契約等)と1~3巻刊行	4~6巻刊行と講演会の開催	年2~3巻の刊行	第7-8巻を発行予定	7巻が発行された	50%	8巻を編集し、発行する	—	年2~3巻の刊行	子ども向けの読み物を検討	